

2018年3月期 第2四半期連結決算ハイライト

阪和興業株式会社
(単位: 億円 億円未満切捨て)

2018年3月期 第2四半期決算の概要

・本年度第2四半期決算は、鋼材や金属資源の価格が前年同期に比べ高い水準にあったことなどにより、売上高は前年同期比17%増の8,369億円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、金属原料事業の営業利益増加に加えて、前年同期の為替差損が差益に転じたことなどから、前年同期比31%増の81億円となりました。
・中間配当は10円を実施予定、期末配当は50円(※10月1日実施の5株を1株にする株式併合に伴う10円予想の表示変更)を予定しております。

経営成績	当第2四半期 (累計)	前第2四半期 (累計)	前年同期比		主な要因
			増減	増減率	
売上高	8,369	7,156	1,213	17%	<p>(売上高) 前年度後半から上昇傾向に転じた鋼材や金属資源価格の水準が前年同期に比べ高いレベルにあったことから、前年同期比17%の増加となりました。</p> <p>(販管費) 前年同期比で11%約22億円の増加となり、その内、新規連結した子会社の影響は約7億円でした。また、人件費は約8億円(内、新規連結子会社分約3億円)の増加となりました。</p> <p>(営業外損益) 営業外収益は為替差益の発生他、受取利息、受取配当金の増加などにより、86%の増加となりました。営業外費用は借入金の増加などにより支払利息は増加したものの、為替差損の減少などにより、10%の減少となりました。</p> <p>(特別損益) 特別利益は関係会社の事業整理に伴う損失が想定より少なかったことから、過年度の引当金の戻り益を計上しました。</p>
売上総利益	335	307	27	9%	
販管費	221	198	22	11%	
営業利益	114	109	5	5%	
営業外収益	33	17	15	86%	
営業外費用	25	28	△2	△10%	
経常利益	122	99	23	24%	
特別利益	5	1	3	305%	
特別損失	—	2	△2	△100%	
税引前四半期純利益	127	98	29	30%	
法人税等	46	36	10	29%	
四半期純利益	81	62	19	31%	
親会社株主帰属分	81	62	19	31%	
非支配株主帰属分	△0	0	△0	—	
E P S	200.66円	151.42円	49.24円	33%	
四半期包括利益	103	41	61	150%	

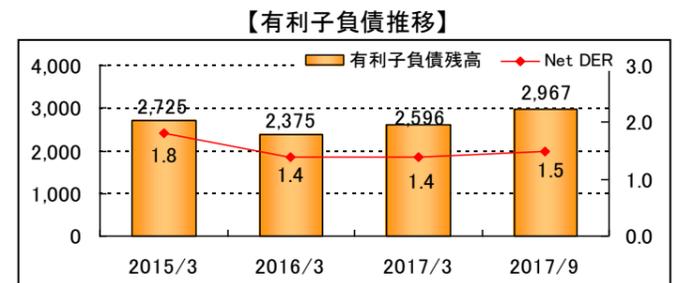
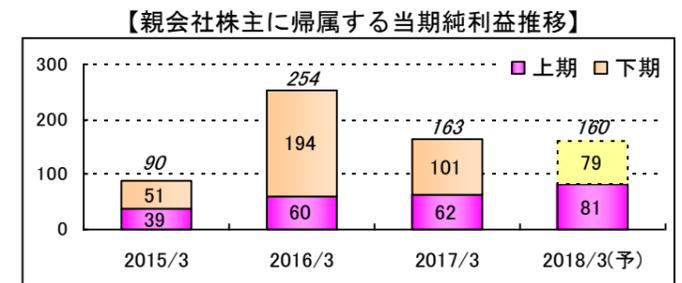
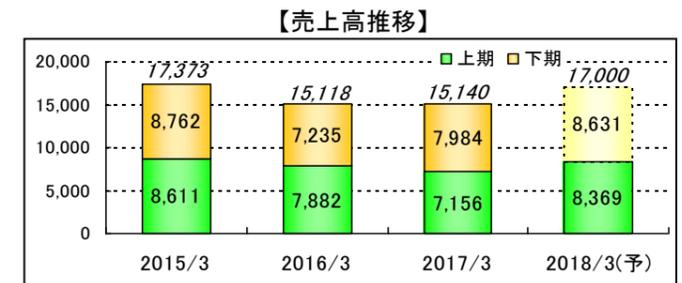
セグメントの状況	売上高			セグメント損益(経常損益)			主な要因
	当第2四半期	前第2四半期	増減率	当第2四半期	前第2四半期	増減率	
鉄鋼	4,372	3,710	18%	104	85	21%	<p>(鉄鋼) 需要に盛り上がりはないものの、堅調に推移。鋼材市況の上昇による増収とともに、紐付き取引中心に利幅が拡大し、増益となりました。</p> <p>(金属原料) 価格水準の上昇とステンレス母材、合金鉄の拡販などにより増収に、損益面では販売益の増加に加え前期赤字の昭和メタルの損益回復も寄与しました。</p> <p>(非鉄金属) 国際価格上昇や鋼スクラップの販売増により収益は増加したものの、為替差損の発生により減益となりました。</p> <p>(食品) 海外産地の水揚げや在庫の減少により価格が上昇、販売も堅調に推移して増収となるも、仕入れコストの上昇による利幅の縮小から減益となりました。</p> <p>(石油・化成品) 製品価格は緩やかに上昇も、業販玉販売や需給調整取引の減少などにより減収に、仕入れコスト上昇の転嫁遅れや輸入日用雑貨品の利幅縮小により、減益となりました。</p> <p>(海外販売子会社) シンガポールでの船用石油やタイ・シンガポール・北米での金属スクラップ拡販が収益を押し上げ、華北子会社の持分法利益改善も寄与しました。</p>
金属原料	889	617	44%	14	△1	—	
非鉄金属	459	371	24%	4	5	△8%	
食品	509	447	14%	8	10	△15%	
石油・化成品	1,063	1,250	△15%	6	9	△28%	
海外販売子会社	1,108	826	34%	2	0	—	
報告セグメント計	8,401	7,223	16%	141	108	30%	
その他	369	396	△7%	4	9	△58%	
合計	8,771	7,619	15%	145	118	22%	
調整額	△401	△463	13%	△22	△19	△16%	
PL計上額	8,369	7,156	17%	122	99	24%	

トピックス

- ・4月 鋼材卸売業の亀井鐵鋼、山陽鋼材をグループ会社化
- ・4月 炭酸リチウム製造のBacanora Mineralsへ出資
- ・5月 クロム鉱石採掘、フェロクロム製造のSamancor Chrome Holdingsに追加出資

財政状態	当第2四半期末	前期末	前期末比		主な要因
			増減	増減率	
総資産	7,646	6,942	704	10%	<p>(総資産) 投資有価証券や売上債権の増加などにより、前期末比10%増となりました。 たな卸資産 1,236億円(前期末比 +11%)</p>
(流動資産)	5,585	5,377	207	4%	
(固定資産)	2,061	1,564	496	32%	
負債	5,711	5,225	485	9%	<p>(負債) 長期借入金や仕入債務の増加などにより、前期末比9%増となりました。有利子負債も約14%増加し、ネットDERは1.5倍となりました。</p>
(グロス有利子負債)	2,967	2,596	370	14%	
(ネット有利子負債)	2,630	2,312	318	14%	
Net DER	1.5倍	1.4倍	0.1倍	9%	
純資産	1,934	1,716	218	13%	<p>(純資産) 日本南ア・クロムの非支配株主持分が増加したことや四半期純利益からの積み上がりなどにより、前期末比13%増となりました。 自己資本比率は、前期末比△1.2ポイントの23.3%となりました。</p>
(株主資本)	1,658	1,597	60	4%	
(その他の包括利益累計額)	125	107	17	17%	
(非支配株主持分)	151	12	139	—	
B P S	4,387.83円	4,193.50円	194.33円	5%	
自己資本	1,783	1,704	79	5%	
自己資本比率	23.3%	24.5%	△1.2pt	—	

キャッシュ・フロー	当第2四半期 (累計)	前第2四半期 (累計)	前年同期比		主な要因
			増減	増減率	
営業活動によるCF	△72	220	△293	—	<p>(営業CF) 売上高の増加に伴う運転資金需要の増加によるものです。</p> <p>(投資CF) 投資有価証券の取得や長期貸付に係る支出によるものです。</p> <p>(財務CF) 長期借入金による調達増加などによるものです。</p>
投資活動によるCF	△335	△13	△322	—	
財務活動によるCF	441	△55	496	—	
現金及び現金同等物	316	404	△87	△22%	



通期の見通し	通期業績 予想	前期実績		対前期増減率	配当の状況	前期実績	当期実績	当期予想
		前期実績	対前期増減率					
売上高	17,000	15,140	12%	中間期	9.00円	10.00円	—	
営業利益	255	234	9%	期末	10.00円	—	50.00円 (株式併合後)	
経常利益	240	229	5%	年間配当	19.00円	—	—	
親会社株主に帰属する当期純利益	160	163	△2%	配当性向	24%	—	25%	